

北に育つ

北海道稚内養護学校
学校便り
平成30年10月12日発行
第4号
発行者 首藤 啓美子

「半分、そして残りの半分」

校長 首藤 啓美子

10月に入り、朝夕の寒さを肌で感じる季節となりました。また「すっかり秋ですねー。寒くなりましたねー。もうすぐ雪の季節ですね。」などの挨拶が交わされる季節でもあります。

学校は、昨今3学期制から2期制に変わる学校が多く、ちょうど1年の半分、前期（4月～9月）が終わり、後期（10月～3月）が始まる季節です。稚内養護学校も2期制です。個別の指導計画に記された前期評価と後期目標をもとに、保護者の方と個別懇談が行われるこの風景も、本校における10月の一コマです。

半年といえば長く感じるのですが、「1学期が終わり、2学期が始まって1ヶ月と少し」という見方になると、あっという間の半年ではなかったでしょうか。この個別懇談は、〇〇ができるようになった、頑張って〇〇ができるようになってほしいということに終始せず、日々成長しているお子さんの様子を見て、学校での様子をご家庭での様子とを重ね合わせ、一緒に話し合うことで、残りの半年を具体的に何をしていくかを確認する大事な時間だと考えております。

身体の成長や情操などを育むことには時間がかかります。1年の途中で振り返る時間を持ち、この1年間の半分の歩みを確認し、残りの半分で確実な成長をと考えます。学校で過ごす時間やご家庭の生活を通して、子どもたちが日々、一步一步、前に歩み続けられるように、ご家庭の協力をえながら、学校の残りの半年を充実させていきます。

さて、8月と9月に行われた学校の行事を2つご紹介します。

8月30日は、高等部の作業学習で平成27年度から続けている「滑り止め砂入りペットボトル製作」に係わり、北海道開発局稚内開発建設部から道路功労者賞の表彰を受けました。

冬には稚内市内の交差点などの滑り止め砂箱に置かれますので、ぜひご活用ください。



9月21日は、今年で4年目になる「大谷高校マラソン大会交流」が行われました。

本校の通学路をマラソンコースの一部に活用し、給水所の設置などでマラソン大会に協力しています。中学部生徒は応援旗を製作し、力いっぱい声援します。今年は、高等部生徒全員で学校周辺の周回コースマラソンを行いました。大谷高校生徒と行き違う場面があり、ハイタッチや「頑張ろう」の掛け声など実際に走る経験を通じた交流ができました。同じ世代同士、高校生同士の交流として、生徒同士がお互いに感じたことも多かったのではないのでしょうか。



9月29日は土曜参観日でした。たくさんの皆様にご参観いただき、ありがとうございました。学校での子どもたちの頑張る様子、4月からの成長の姿を参観いただけたのではないのでしょうか。子どもたちは、「お母さん、お父さん、ご家族の方が見に来る、頑張る」と朝からわくわくしていました。子どもたちの成長には、そんなわくわくやはげみ、意欲がとっても大切です。

残りの半年も、ご家族の皆様、地域の皆様のご協力をいただきながら、子どもたちの成長を見守り、子どもたちの「せいっぱい」を支えたいと思います。

後期も、皆様のご協力をお願いいたします。

◎ 中学部 社会体験学習を実施しました ◎ (文責：市川)

9月4日(火)～6日(木)の3日間、中学部の社会体験学習でした。今年度は、1日目に稚内第一木馬館とはまなす学園での職場見学を行い、2・3日目は、天候不良等により実施できませんでしたので、別日に校内で半日作業学習を行いました。



職場見学は、学校からすぐの場所にある、稚内第一木馬館とはまなす学園で行いました。

稚内第一木馬館では、レーザー加工機での木材加工を見学、パネルソーを使用して木材加工もさせてもらいました。パネルソーとは、壁に立てかけた木材を直線に切断する機械で、生徒達も興味津々で体験していました。

はまなす学園では、しいたけのほだ木運びやワークハンドを見せてもらいました。本校の卒業生とも再会し、生徒達も嬉しそうでした。先輩達の働く姿を見ることができ、生徒達はもちろん教員も勉強になった1日でした。

校内での半日作業学習は、いつもより長い時間の作業でしたが、枝豆の選別と枝豆やズッキーニを育てるために使っていたプランターやポットを丁寧に洗いました。各自役割があり、みんなで協力して、時間いっぱい作業をすることができました。



ついつい、まだ先のこと…と考えてしまいましたが、今から生徒自身ができそうなこと、やってみたいことを見つけていけるように支援していきたいと思いました。学校生活にこの社会体験学習を活かしてもらえたら嬉しいです。



◎ 新たな経験、力の発揮、笑顔あふれる見学旅行 ◎ (文責：安田)



高等部の見学旅行は関東方面に行きました。初めての乗り物、初めての場所と「初めて」づくしの旅で、全ての日程の中で様々な経験をしてきました。

とにかく、初めて見た「関東」が新鮮で、すべてが楽しかったようでした。まず、飛行機で降り立ち、貸切バスで東京の街中を移動していると、走る車や見えるビル、看板の文字などすべての物に興味を示している姿に微笑ましくなりました。

そんな生徒達が行った、今年の見学先は、自主研修として訪れたフジテレビ、スカイツリー、浅草寺、秋葉原・東京駅と、全員で行ったディズニーランドでした。

それぞれの場所で、たくさんの思い出を作ることができましたが、その中でも特に生徒達が楽しんでるのが、ディズニーランドでした。

テレビで見ていた憧れのアトラクションに乗って喜んだり、キャラクターと笑顔で触れあったり、初めてのジェットコースターに驚きながらも楽しんだり、これまで見たことのない生徒達の表情をたくさん見ることができました。

また、旅館では学校や見学先とは違った一面を見ることができました。就寝時間が近づくと自分達から寝る準備や次の日の準備を始めて就寝したり、起床後に布団を畳み、着替えをして、荷物の整理をしておくなど自分で考えて行動する場面が多く見られました。



見学旅行後の事後学習で行ったまとめでは、それぞれの見学旅行に対する思いが次々と出てきて、とても有意義なまとめとなりました。また、思い出発表会では、自分の思い出ランキングを発表し、どんなところが楽しかったかを説明してもらいました。

思い出が多すぎて、時間が足りなくなるほど、楽しそうに発表してくれました。



入学してからこれまで共に過ごしてきた仲間と一緒に行けた見学旅行は、生徒達の中で高校生活最大の思い出になったのではないのでしょうか。その生徒達の思いがこもったまとめは、高等部棟に掲示してあります。来校された際には是非ご覧下さい。

